

日本気象学会1997年度秋季大会の告示

1. 期 日：1997年10月7日（火）～9日（木）
2. 会 場：北海道大学・学術交流会館及び百年記念会館（札幌市北区北8条西5丁目）
3. 研究発表
口頭またはポスターによる。口頭発表は4会場に分かれて行う。ポスター発表は「ポスター・セッションの方法」（下記）による。
講演申込方法については「講演申込要領」（下記）参照。
4. シンポジウム
大会第2日（10月8日）に開催予定。テーマは「北極圏の大気環境と物質循環」。
5. 大会参加費、懇親会費
郵便振替による前納または当日受付による（前納用

の振替用紙は6月号に挿入予定）。大会当日は混雑しますので、極力前納するようお願いいたします。

金額は以下の通り。

大会参加費

	一般会員	学生会員	会員外
前 納	2,000円	1,000円	-----
当日払	3,000円	2,000円	3,000円

懇親会費

	一般会員	学生会員
前 納	4,000円	3,500円
当日払	5,000円	3,500円

なお懇親会は大会第2日（10月8日）夕刻に開催予定。

講演申込要領

1. 発表の種類
 - (1) 講演方法には、口頭発表とポスター発表の2種類がある。
 - (2) このうち口頭発表には、第1種講演と第2種講演の2種類がある。
 - ・第1種講演(発表5分、質疑2分)：発表内容には特に条件はない。
 - ・第2種講演(発表10分、質疑5分)：よくまとまった段階にあり、論文等の形で査読制度のある刊行物に投稿済み、または1998年3月までに投稿予定の研究を発表する。
このため、第2種講演の申込には以下の要件が必要である。
 - (a) 予稿には、1章を設けて明確なまとめまたは結論を書く。
 - (b) 申込用紙には、研究を印刷発表する刊行物名(予定でも可)を書く。
講演企画委員会は予稿をチェックし、第2種講演に申し込まれたものが上記の要件を満たさないと判断した場合には、第1種講演に振り替える。
なお印刷発表予定の研究であっても、中間報告・速報の性格が強いものや、すでに第2種講演として発表された研究の補足の性格を持つものは、第2種講演の

対象にはならない。

2. 発表件数の制限

口頭発表・ポスター発表それぞれ、1講演者について1件以内とする。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に処置する。

3. 申込方法

- (1) 本号末の申込用紙に記入し、予稿集原稿を添えて下記宛先に送付する。なお、「講演予稿集原稿の書き方」に変更があるので注意すること。

〒305 茨城県つくば市長峰1-1

気象研究所予報研究部内

講演企画委員会（小泉 耕）

- (2) 申込期限：1997年7月23日（水）必着。

5. その他

- (1) 講演者索引を作成するため、申込用紙には講演者の姓名とそのローマ字表記を明記して下さい。
- (2) 第2種講演については、なるべく予稿の本文にも印刷発表（予定の）刊行物名を書いて下さい。第1種講演やポスター発表についても、成果を印刷発表する予定であれば、予稿本文への記載をお願いします。

ポスター・セッションの方法

1. ポスター・セッションは大会第1日(10月7日)夕方に行う予定であるが、講演件数が多ければ他の日時にも行う。全体の時間は約1時間で、この間は口頭発表は休憩とする。
2. 各講演者は、指定された会場で概要紹介を行った後、ポスターの前で説明を行う。
3. 概要紹介の持ち時間は1分で、OHPを1枚程度用いることができる。
4. ポスターの掲示場所は当日指定する。ポスターの掲示・撤去は、講演者自身が行う。なお掲示に必要な紙またはテープは、事務局で用意する。
5. ポスターには講演題目・講演者名を明記しておく。
6. 掲示板は縦90cm×横180cm程度である。なおポスターは大きな紙1枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べても良い。

非会員の大会講演について

ここ数年、気象学会の春・秋の大会では、会員でない人が講演を行う例があるようです。

気象学会の定款では“会員は、次の特典を有する。(中略)2. この法人の催す各種の学術的会合に参加すること。”(第8条)となっており、その中には当然、大会における講演も含まれます。その一方、細則では“講演企画委員会または大会委員会が承認した場合は、会員でない者も、学術的会合において講演を行うことができる”(第12条)と規定されています。しかし、“承認”の手順の具体的な規定がありません。

講演企画委員会では、非会員の大会講演は望ましくないと考えます。しかし、短期滞在の外国人の立場等を考慮すれば、ある程度容認せざるを得ないとも考えられます。今後実態をつかんだ上で、会員各位のご意

見を参考にしながら、非会員の講演について“承認”の具体的な規定を作っていきたいと考えています。この件についてのご意見を、講演企画委員会(事務局は気象研究所・小泉)までお寄せ下さい。

次回の秋季大会の措置は、引き続き以下のようにします。

1. 非会員による講演の実態を把握するため、講演申込用紙に会員番号の記入欄を設ける。
2. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員の講演を認める。

なお上記の措置は、あくまでも暫定的なものです。講演企画委員会としては、大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう望みます。

1997年3月 講演企画委員会

講演予稿集原稿の書き方

大会発表を申し込む会員は、以下の要領で予稿集原稿を作成し、本号末の申込用紙とともに講演企画委員会へ送付して下さい。

1. 原稿枚数：1件1枚
2. 用紙：A4判の白紙を使用する。その他の規格の用紙を使用しないこと。
3. 記入方法：A4判用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けする。原稿はダイレクト製版される。
4. 図および表：写真や図表には折り目が入らないよ

うにする。階調のある写真や図は、階調度が落ちる場合がある。

5. インク：ワープロ、手書きの場合とも、墨または濃い黒色インクを使う。黒以外の色のインクや鉛筆を使用しないこと。
6. 配置(付図参照)：記載範囲は縦250mm×横175mm以内とし、上部には20mmの余白をとる。最上段に標題、その下に著者と所属を書き、本文をその下につける。著者が複数の場合には講演者の左肩に*をつける。標題から本文までの間隔は

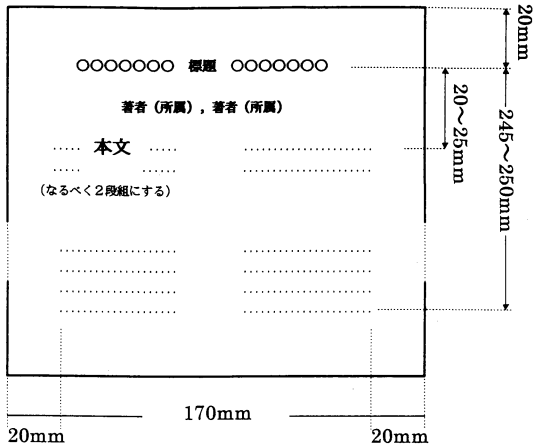


図 A 4判用紙による予稿原稿の作成要領

25～30mm とする。本文はなるべく2段組（左半分→右半分）にする。

7. 著作権：予稿集に掲載された文章および図表の著作権は日本気象学会に帰属する。
8. 送付：予稿集原稿を細かくおりたたまないこと（2つ折りは可）。送付先・送付期限は「講演申込要領」（276ページ）参照。

研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。具体的には、大会プログラムへの掲載、会場・機器の手配、時間の調整などが考えられます。支援を希望する方は、右記の事項を明記の上、講演企画委員会へ申し込んで下さい。

申込先・申込期限：大会講演と同じ

記入事項：1. 会の名称とテーマ

2. 代表者の連絡先

3. 希望日時・開催場所

4. 予想参加人数

5. 希望する支援内容